

古澤 瑞希

1. 事業実施の目的

今回の調査は、博士論文執筆のための予備調査として実施した。

2. 実施場所

佐賀県鳥栖市・佐賀県佐賀市・佐賀県嬉野市

3. 実施期日

2020年4月1日(水)～2020年6月18日(木)

4. 成果報告

●事業の概要

報告者はこれまで、音楽的な観点から浮立という芸能を考察するにあたって、鉦(かね)という双盤(そうばん。寺院の法会で打ち鳴らされる金属性の盤)に似た楽器の凸面を演奏するものに着目し、肥前地域に伝承される鉦を用いる浮立のうち、佐賀県内に伝承されるものについて音楽学的に分析・考察を行ってきた。

現在佐賀県内において伝承されている鉦を用いる浮立には、(A)直径30cm～50cm程度の10～20個の同型の鉦を同じリズムで演奏する芸能と、(B)直径15cm～80cm程度の3～8種の音高の異なる鉦を組み合わせて演奏する芸能というふたつの種類があり、さらに(A)と(B)それぞれのなかに多種多様なものが存在している。現在の佐賀県のひとつひとつが、どのようにその音楽を認識し、どのような理由や動機からそれらを伝承しているのかということ明らかにできれば、このような音楽的多様性を持つ芸能が、佐賀県をはじめとする肥前地域内に現在まで多く残っている理由の一端を明らかにできると考えられる。

今回は、佐賀県において約3か月間の現地調査を実施した。本調査の具体的な目的としては、今回は佐賀県鳥栖市X町において伝承されている「Xの鉦浮立」に関する調査を行うことであった。これは毎年4月29日(昭和の日)にX町内にある神社において奉納されている芸能であり、4月4日から練習が始まり、4月24日に舞台上がりという練習の最後と鉦磨きが行われ、4月29日に奉納が行われる予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルスの流行により、4月7日から隣県の福岡県を含む地域への緊急事態宣言が発出され、さらに4月17日からは47都道府県全てに対しての緊急事態宣言が発出された。緊急事態宣言時には政府からの外出自粛要請があったため、浮立の参加者の多くが一堂に会してしまう芸能の練習、さらには奉納自体など、行事に関わる全ての予定が中止になった。また、4月5日には、1930年代までは鳥栖市Y町内の神社において「Xの鉦浮立」とともに奉納されていた芸能のひとつである「Yの獅子舞」が奉納される予定であったため、X町とY町のふたつの地域間の関わりを知るために、X町区長に同行し、Y町区長などのY町のひとつひとつの会話の様子などを記録する予定であったが、こちらも

新型コロナウイルス流行の影響により、すべての予定が中止になった。そのため、緊急事態宣言の発出までは宿泊先から徒歩で行ける範囲において、聞き取り調査を行った。5月14日の佐賀県に対する緊急事態宣言の解除以降は、佐賀県立図書館における文献資料の探索や、佐賀県内の他地域における聞き取り調査を行った。

現地調査は2020年4月1日から2020年6月17日にかけて実施した。実際のスケジュールは以下の通りである。

- ・2020年4月1日：X町公民館にて区の職員への聞き取り調査を行った。すべての予定が中止になる予定である旨を聞く。
- ・2020年4月2日～2020年4月17日：徒歩や自転車で宿町公民館へ向かい、区の職員や、浮立の関係者への短時間での聞き取り調査を行った。
- ・2020年4月18日～5月14日：緊急事態宣言が発出されたため、宿泊先にて待機。
- ・2020年5月15日～6月17日：5月4日に緊急事態宣言は解除されたものの、県をまたぐ移動については政府より自粛要請が出ていたため、大阪には戻らず、佐賀県立図書館や鳥栖市立図書館にて文献資料の探索や、嬉野市塩田町における聞き取り調査を行った。佐賀県立図書館については、申請をすればカメラによる資料の撮影が可能であったため、複写はせず、カメラによる撮影を行なった。

●本事業の実施によって得られた成果

新型コロナウイルスの流行により「Xの鉦浮立」の行事にかかわるすべての予定が中止になったため、申請時に予定していた調査を遂行することはほとんど不可能であった。しかしながら、ウイルス流行の影響により、「Xの鉦浮立」を伝承しているひとびとの芸能に対する意識の一端が明らかになった。

今回の「Xの鉦浮立」の中止は、ウイルス感染防止のため、接触を抑えることを目的に決定されたとのことである。聞き取り調査において報告者が「以前この行事に参加した際に『Xの鉦浮立』は五穀豊穰・無病息災祈願のために行われていると聞きました。鉦浮立を行わないことによって、その祈願ができないことを恐ろしく思いますか」という旨の質問を行ったところ、「Xの鉦浮立」の運営に長年関わってきたA氏（60代男性）からは、「そこまでは考えていない。2011年の東日本大震災の際も、世のなかの雰囲気を見て、自主的に自粛した。何がいま最も大事かということを考えている」との回答が得られた。X町区長のB氏（70代男性）からは、「『Xの鉦浮立』はX町の一大イベントであるため、人が集まってしまう。自粛は仕方がない」との回答が得られた。また、ウイルス流行には関係がないが、「Xの鉦浮立」の練習期間についての質問をした際に、A氏は「平日の夜と土日の昼にしか練習はしない。仕事が第一、仕事を休んではいけないので、平日の夜に練習をする」と述べていた。

また、申請時には予定していなかったが、今回は「Zの鉦浮立」を伝承している嬉野市塩田町Z地区においても、Z浮立保存会会長のC氏（60代男性）への聞き取り調査を実施す

ることができた。こちらは本来、地区内のお堂において毎年 7 月 12 日に行われる「庚申祭」での奉納、同所にて毎年 8 月 9 日に行われる「とおや」での奉納、同所にて毎年 8 月 24 日に行われる「お地藏尊祭」での奉納、また、毎年 11 月 3 日に行われる近隣神社の「秋祭」での奉納が行われているが、今年の奉納はすべて中止する予定であるとのことである。報告者は以前、「Z の鉦浮立」について、C 氏から「文政年間（1818-1831）のコレラ流行に際して奉納を始めた」という旨が書かれた嘉永元（1848）年の資料がある」、との情報を得ていた。この話を C 氏にしたところ、「本当はこういう時世にこそ奉納しないといけないのは分かっているが、練習ができない。7 月 12 日と 8 月 9 日、8 月 24 日にはお堂でのお参りはする」という返答があった。

鳥栖市 X 町の A 氏と B 氏の反応と、嬉野市塩田町 Z 地区の C 氏の反応には、大きな差が感じられた。A 氏と B 氏の反応からは、彼らが「X の鉦浮立」を年中行事としてではなく、町の一大イベントとしてとらえていることがうかがえるのに対し、C 氏の反応については、C 氏が「Z の鉦浮立」を年中行事としてとらえているように思われる。このことには、「X の鉦浮立」を現在伝承しているひとびとの多くが会社勤めであるのに対し、「Z の鉦浮立」を現在伝承しているひとびとの多くが農業従事者であることが関係しているのではないかと考えられる。今後ウイルスの流行が収束し次第、両方の地域において、80 代以上の世代や、現在主に伝承を担っている 20 代～50 代のひとびとも聞き取り調査を行い、確認していきたい。

この事業の成果は、2020 年 11 月に行われる東洋音楽学会の第 71 回大会において発表を行う予定である。

●本事業について

この事業により、経済的負担が軽くなり、フィールドに通常よりも長く滞在することが可能となった。そのため、異なるふたつの地域・時期の行事に関する調査を行うことができた。博士論文執筆に向けた口頭発表の準備を進めることにもつながり、大変重要な機会を得ることができたことにとっても感謝している。今後もこの事業を継続していただきたいと心から願っている。